



(吉野山)

から南東に遡る谷筋にあたる。一九九七年度(第八六次調査)に八カ所のトレンチを設定して調査を行ない、谷の西寄りを流れる旧流路SDO一〇と谷中央東寄りで大規模な掘立柱建物、堀などを検出した。

第九二次調査では、対象

奈良・飛鳥池東方遺跡

あすかいけとうほう

- 1 所在地 奈良県高市郡明日香村大字飛鳥字池ノ上・池ノ下
- 2 調査期間 第九二次調査 一九九八年(平10) 四月～六月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 黒崎 直
- 5 遺跡の種類 流路跡
- 6 遺跡の年代 七世紀～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 飛鳥池遺跡と一連の博物館建設に伴う調査である。遺跡は、飛鳥池遺跡の東側丘陵より東、飛鳥坐神社南の丘陵の南に位置し、北西

を南に拡げて調査を行なった。発掘面積六〇四㎡。今回あらたに四棟の掘立柱建物、七条の掘立柱堀などを検出したが、最も注目されるのは、旧流路SDO一〇の確認である。SDO一〇は出土遺物からみて、七世紀中頃から平安時代まで存続しており、堆積土は大きく四時期に分けられる。溝の両肩を確認したトレンチはないが、地形との関係から溝幅が六～七mある大規模な溝であり、人工的な掘削が行なわれており、この周辺における基幹排水路の役割を果たしていたものと思われる。木簡はこの旧流路の下層から、一点が出土した。なお、この流路は酒船石遺跡東方からさらに岡寺方向まで遡り、下流は飛鳥坐神社の西側を北流してゆく。斉明紀の「狂心渠」との関係も指摘されるが、なお検討すべきであろう。

8 木簡の积文・内容

(1) 「煮物」

112×20×8 032

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報一九九〇—II』(一九九九年)

同『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』一四(一九九九年)

(寺崎保広)